

(施策評価表14)

【施策番号 I-2-③-1】

取組みの方向性	活力を創る	戦略	【戦略2】稼げる農林水産業への挑戦 ～農林水産業を再生します～	主な施策	◆安全安心・ブランド力を強化する ～くまもとの安全安心・ブランドの発信～
			③くまもとブランドの創造・確立		

1 取組内容	2 主な事業	担当課	H25予算(千円)	3 平成24年度の主な成果	4 平成25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
			H24決算(千円)				
<p>・安全安心な農産物を生産・供給するとともに、熊本のきれいで豊かな地下水と自然環境を守るため、生産者・販売者・消費者が連携して支える「くまもとグリーン農業」の取組みを強力に展開します。</p>	くまもとグリーン農業総合推進事業	農業技術課	33,625	<p>・組織的な生産宣言の推進や常設販売コーナーの設置、表示マークを集めて応募する「マークキャンペーン」の実施、「地下水を守る」をテーマとした県民大会の開催等の結果、販売コーナー設置31店舗、生産宣言約7,000件、応援宣言約3,000件と大幅に増加した。</p> <p>・「くまもとグリーン農業」の推進を支援するため、安全な農産物づくり及び環境に配慮した持続型農業生産を行うための技術の高度化・総合化を中心とした研究開発を進め、14件の成果が得られた。</p>	<p>・農産物への「グリーン農業マーク」の表示を強化するとともに、マークキャンペーンの拡大やHPを使った生産者と消費者の交流拡大等をおとして、理解促進と認知度の向上を図る。</p> <p>・「くまもとグリーン農業」の推進を支援するため、今後とも安全・安心な農産物づくり及び環境に配慮した持続型農業生産を行う研究開発を進める。</p>	<p>・グリーン農業の認知度・生産量・販売店舗とも順調に増加しているが、まだ十分とはいえない。また、通信販売や量販店などからの多様なニーズに応えられるよう、農産物へのグリーン農業マークの表示を増やしていく必要がある。</p> <p>・グリーン農業拡大の技術的な柱として、減農薬・減化学肥料・環境負荷低減の技術開発を加速させる必要がある。</p>	<p>・推進状況の分析による働きかけ対象の明確化、農産物への表示強化、多様化するニーズへの対応、キャンペーンやHPを使った交流などを通して、グリーン農業に取り組む農業者、応援する消費者等を拡大する。H27年度末のくまもとグリーン農業に取り組む農家数が23,000戸となるよう取り組む。</p> <p>・グリーン農業に資する技術開発を継続する。</p>
	安全な農産物の生産技術高度化事業	農業研究センター	12,576				
			15,005				
<p>・“非主食用米作付日本一”という強みを生かし、安全でおいしい米粉パンや、県産飼料用米で育てた牛肉など、熊本ならではのブランドを育て、広めます。</p>	くまもとファン拡大活動支援事業	流通企画課	6,956	<p>・サポーターへの情報発信、くまもと誘友大使と連携したフェア開催等により、サポーター登録者数は12,229人(前年比98人増)となった。</p> <p>・米粉用米の作付面積が205haに拡大。米粉パンの学校給食への助成、販売促進、講習会、インストラクター養成(29人)や米粉サポーター募集(757人)等により米粉普及拡大を進めた。</p> <p>・こだわり畜産物のPRにより認知度向上に繋がった。また、飼料用米の畜産利用を進め、TMRセンターにおいて約500tが利用された。</p> <p>・焼酎の地元産米利用は、事業実施前と比べ、作付面積が51ha増の96ha、生産量が244t増の410t、蔵元が11から16に増加したが、H23年度以降、作付面積・生産数量が伸び悩んでいる状況。</p>	<p>・サポーターを対象とした旬レポート発行や産地見学会等開催、大使等と連携した活動を通じたサポーター拡大により、県産農林水産物の販路拡大を実現していく。</p> <p>・米粉用米の病害虫対策、低コスト栽培体系の確立を図るとともに、生産拡大、実需者の需要拡大、一般家庭への普及定着を推進する。</p> <p>・耕畜連携による飼料用米等の本格的な生産拡大、広域流通システム構築を支援する。</p> <p>・地元産焼酎原料米の生産面積・取扱数量の拡大を図る(計画:119ha、625t)とともに、多収性品種への利用を促進させる。</p> <p>・多収性品種の認知度向上と需要喚起を図るため、生産者・蔵元等に対し普及推進(PR)活動を実施する。</p>	<p>・県産農林水産物等の情報をサポーターへ定期的に発信しているが、消費者の意見要望の受信等、双方向で情報が行き交うシステムを整備していく必要がある。</p> <p>・米粉の商品開発や需要拡大、飼料用米の生産利用拡大を図る必要がある。</p> <p>・県内の飼料用米作付面積は拡大してきたが、県内畜産利用の割合を高める必要がある。</p> <p>・焼酎原料米の省力・低コスト生産の実現を図る必要がある。</p>	<p>・ホームページなどを活用した「くまもとの魅力」の発信や新たな大使等との連携した活動により、くまもとファンであるサポーターの拡大を図り、県産農林水産物の販路拡大を実現していく。</p> <p>・県産米粉の実需者による利用拡大及び一般家庭への普及定着を推進することにより需要を拡大させるとともに米粉用米の生産を拡大させる。</p> <p>・飼料用米の低コスト化・多収技術の向上及び効率的流通保管体制の構築、さらに飼料としての調製技術向上により、畜産分野での利用を拡大していく。</p> <p>・多収性品種の生産拡大及び農業者と蔵元の相互理解促進による地元産焼酎原料米の安定供給体制を実現する。</p>
	くまもとの米粉総合推進事業	農産課	169,954				
	非主食用総合推進事業・くまもとの米粉販売促進事業・米咲かじいさん食べ歩き紀行情報発信事業		126,315				
	県産米粉パン地産地消促進事業	農産課	65,550				
			31,039				
	くまもと型飼料用米生産流通モデル推進事業	農産課 畜産課	82,308				
			40,266				
	「クマコメ」畜産物確立推進事業・こだわり(飼料用米給与)畜産物PR事業	畜産課	0				
			20,959				
	球磨焼酎等ブランド確立推進事業	農産課	43,170				
		24,053					
球磨焼酎原料米多収品種利用促進事業	農産課	4,300					
		0					
<p>・米やなす、温州みかん、黒牛などの「くまもと産」農畜産物の価値と魅力を国内外へ発信するとともに、「くまもとイチ押しブランド」の更なる展開を図ります。</p>	くまもと畜産物流通戦略対策事業	畜産課	6,749	<p>・梨「秋麗」のトップグレード品質管理体制維持のため、新たに2カ所で光センサー選果体制を整備した結果、ブランド化に寄与した。</p> <p>・栗「ぼろたん」は登録園の拡大で5.6tが本格販売。また、花き「トルコギキョウ」は23万本が出荷された。</p> <p>・県産牛肉、ひごさかえ肥皇、天草大王のPR活動や各種キャンペーンにより首都圏等での認知度が高まり、特にあか牛肉の取引価格が上昇した。</p> <p>・生産から流通までの工程にHACCPを導入した衛生管理体制を構築するために、農場HACCP認定取得を推進。より安全安心な食肉の供給体制の整備を進めた。</p> <p>・一般財団法人日本穀物検定協会による平成24年産米の食味ランキングで、森のくまさん、ヒノヒカリ、くまさんの力の3品種が最高評価である特Aを獲得した。特に、森のくまさんが全128産地品種の中で最高点で1位の評価を得た。</p> <p>・航空機内や東京等の飲食店で約3万人へ「くまもと茶」(湧雅のこち)の試飲提供を行った。また、東京都茶協同組合と連携して求評会を開催し、首都圏でのくまもと茶に対する認知度向上を図った。</p>	<p>・梨「秋麗」、栗「ぼろたん」、花き「トルコギキョウ」について、トップグレードの品質管理体制に基づく生産・販売に引き続き取り組み、くまもとイチ押しブランドづくりを進める。</p> <p>・県産牛肉、ひごさかえ肥皇、天草大王の認知度向上及び消費拡大を図るため、PR活動や各種キャンペーンを継続実施する。</p> <p>・トップグレード米の生産販売による県産米ブランドを確立するため、タンパク質含量等の基準による仕分集荷や品質管理体制の整備に取り組む。</p> <p>・大消費地の首都圏の生活者に対する県産米のPR活動や情報紙による県産米のキャンペーンを実施する。</p> <p>・優良な遺伝資源の収集・保存、DNAマーカー活用による選抜の加速化により、次世代を担う新たな水稲品種の開発を進めるため、研究施設整備を行う。</p> <p>・「湧雅のこち」を前面に打ち出した「くまもと茶」のPRや航空機内での試飲キャンペーン、機内誌での広報、「くまもとの宝試食会」でのトップセールスを継続実施するとともに、東京都茶協同組合と連携した商談会や店頭PR等を実施する。</p> <p>・全国トップレベルの黒毛和種種雄牛を作出するために必要なドナーの選定、導入、ドナー牛舎の整備を進める。</p>	<p>・県が進める、熊本の顔となることのできる園芸品目の生産拡大に併せ、こだわりのある品質管理体制等を整備し、トップグレードの産品づくりを推進する必要がある。</p> <p>・消費者の信頼を確保するため、良食味米としての品質基準及び管理体制整備を推進する必要がある。</p> <p>・首都圏への周知、PRによる県産米のさらなる認知度向上及び定着を図る必要がある。</p> <p>・時代のニーズにマッチした次世代を担う品種を育成し、県産米ブランド力の強化を図る必要がある。</p> <p>・くまもと茶のブランドを支えるための品質向上対策の徹底と首都圏向けの商品開発。</p> <p>・優秀なドナー選定のための雌牛の産肉能力等の情報収集(特に県外の情報が少ない)を効率的に行なっていく必要がある。</p>	<p>・魅力ある品目とこだわりのある品質管理体制の整備により、県産農林水産物の牽引役となるブランドとして育て上げる。</p> <p>・次世代を牽引する新たな水稲品種の育成と良食味米生産供給体制の確立により、消費者の期待に応えられる米づくりを実現する。</p> <p>・「くまもと茶」の地域団体商標登録を取得し、商標やマークを積極的に活用したPR、販路拡大に取り組み、県内外における県産茶の認知度を高める。</p> <p>・導入したドナーと受精卵移植技術等を活用して、全国トップレベルの種雄牛を作出し、5年毎に開催される全国和牛能力共進会での上位入賞を目指す。</p>
			11,308				
	くまもとの畜産物輸出体制モデル整備事業	畜産課	0				
			1,307				
	未来を拓くくまもとブランド和牛(あか牛・黒牛)種雄牛作出事業	畜産課	180,003				
			0				
	魅力あるくまもとブランド園芸産品づくり推進事業	園芸課	6,800				
			4,416				
	くまもと米トップグレード総合推進事業	農産課	7,900				
			2,650				
日本一くまもとの米首都圏戦略推進事業	農産課	7,349					
次世代水稲品種育成加速化事業	農産課	133,227					
くまもと茶魅力発信支援事業	農産課	5,036					
魅力あるくまもと茶づくり支援事業	農産課	4,752					

(施策評価表14)

1 取組内容	2 主な事業 〔上段:H25事業 下段:H24事業〕	担当課	H25予算(千円)	3 H24年度の主な成果	4 H25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
			H24決算(千円)				
<p>・有明海、八代海、天草灘の特性を生かした海のブランド(あまくさアジ、クマモトオイスター、黒海苔など)を磨き上げ、直売所の整備を支援するなど、県内外への販売戦略を強化します。</p>	くまもとの魚流通支援事業	水産振興課	4,800	<p>・くまもと地魚マスター等と連携した魚食普及活動や量販店での県産水産物のPRイベント等を開催し、県産水産物への認知度向上や販路拡大を図った。</p> <p>・天草地域を中心に漁協による直販所の整備、新たな加工品の開発及び車エビつかみ取り大会(あまくさエビリンピック)などの取組を支援し、地域活性化へ向けたモデル的な取組の展開や漁業関係者の取組み意欲の高揚を図った。</p> <p>・クマモト・オイスターの試験販売で約8千個出荷できた。</p>	<p>・県産水産物の地産地消をはじめ、都市圏やアジア圏での認知度向上と販路拡大へ向けた取組を推進する。</p> <p>・漁協における直販施設の整備や水産加工品・ブランド品づくりなど、売れる水産物づくりを進めるとともに、体験漁業などのツーリズムを行うための受け入れ体制の整備を進める。</p> <p>・クマモト・オイスターの種苗量産化技術の確立と養殖技術向上の指導、量産化に必要な生産施設の整備に取り組む。また、生産量の増加に対応した販売体制の整備に取り組む。</p>	<p>・少量多品種の沿岸水産物の安定的な出荷と価格交渉力を確保するとともに、多様な消費者ニーズに対応した出荷・流通体制の整備が必要である。</p> <p>・未利用・低価格などの水産資源を有効に活用し、漁家所得の向上に繋げていくことが必要である。</p> <p>・クマモト・オイスターは早期の増産体制確立により、需要対応や生食用力キ市場での地位確保が必要である。</p>	<p>・県産水産物の認知度向上や販路・消費拡大を図ることにより、魚価の向上や漁家所得の向上を図る。</p> <p>・水産業の活性化や水産資源を活用した地域の活性化へ向けた取組を推進することにより、漁家所得の向上や地域経済の維持・発展を図る。</p> <p>・県内を中心にクマモト・オイスターを10万個試験販売できるようにする。</p>
	くまもと四季のさかな流通支援事業	水産振興課	2,844				
	くまもと水産業の元気づくり事業	水産振興課	8,470				
	熊本産「クマモト・オイスター」流通生産推進事業	水産振興課	32,193				
	熊本産「クマモト・オイスター」づくり事業	水産振興課	7,551				
<p>・熊本には、ひともし、阿蘇高菜など昔から伝わる伝統野菜や水前寺のりなど貴重な作物があります。これらの種苗や栽培技術の保護及び生産・流通促進に取り組めます。</p>	多彩で特徴あるくまもとの農林水産物拡大事業	流通企画課	10,991	<p>・主力品目以外の多彩で魅力ある品目の掘り起こしと、レストラン等実需者を対象とした売り込みを実施した。</p> <p>・「くまもとふるさと野菜」として、「ひともし」「阿蘇高菜」など15品目を伝統野菜として指定しており、県ホームページでより広く紹介するとともに、パンフレットを活用して広報した。</p> <p>・毎年夏頃の種苗の確保状況や作付動向調査の機会を捉えて、種苗や栽培技術に関する相談に対応できる体制を整備している。</p>	<p>・開拓した流通ルートで、レストラン等実需者を対象に継続的に売り込む。</p> <p>・くまもとふるさと野菜等の掘り起こしと、その需要拡大にかかるテストマーケティングを実施する。</p> <p>・生産状況調査や県ホームページ等を活用したPRを行う。</p>	<p>・消費地のニーズに対応した継続的な取引が必要である。</p> <p>・伝統野菜は地域の食文化と一体のため、作物そのものと併せてその食べ方についてもPRを図る必要がある。</p>	<p>・こだわりや特徴ある県産農林水産物について継続的な取引及び販路拡大が図られる。</p> <p>・「くまもとふるさと野菜」の生産状況、伝統料理での利用と新たな利用方法の紹介・PRを行う</p>
	伝統野菜の紹介・PR	園芸課	0				
			0				
	主な施策のまとめ			<p>●くまもとグリーン農業の販売コーナー31店舗、生産宣言約7,000件、応援宣言約3,000件と大幅増。</p> <p>●米粉パンの学校給食への助成や講習会等により米粉の普及拡大を進めた。米の畜産利用も進展。</p> <p>●「くまもとイチ押しブランド」について、梨「秋麗」の光センサー選果体制整備、栗「ぼろたん」の本格販売開始、「トルコギキョウ」の23万本出荷。</p> <p>●一般財団法人日本穀物検定協会による平成24年産米の食味ランキングで、森のくまさん、ヒノヒカリ、くまさんの力の3品種が最高評価である特Aを獲得。特に、森のくまさんは最高評価。</p> <p>●PR活動やキャンペーン活動によるあか牛肉取引価格の上昇。</p> <p>●クマモト・オイスターの試験販売で約8千個出荷。</p>	<p>●「グリーン農業マーク」の補助事業やキャンペーンを実施、表示による消費者の認知度対策を強化。</p> <p>●大消費地の首都圏の生活者に対する県産米のPR活動や情報紙による県産米のキャンペーンを実施。</p> <p>●米粉用米の一般家庭への普及定着を推進。耕畜連携での飼料用米等の生産拡大・流通保管体制構築を支援。</p> <p>●トップグレードの品質管理体制に基づく「秋麗」「ぼろたん」「トルコギキョウ」の生産・販売の継続。</p> <p>●県産牛肉・ひごさかえ肥皇・天草大王の各種キャンペーンの継続実施。</p> <p>●漁協における直販施設の整備やブランド品づくり。</p> <p>●クマモト・オイスターの種苗量産化技術の確立、生産施設の整備。</p>	<p>●「グリーン農業」の認知度の向上、通信販売などの多様なニーズに対応した「マーク表示」の拡大。</p> <p>●飼料用米作付面積の拡大に応じた畜産利用の割合の向上。</p> <p>●こだわりのある品質管理体制整備によるトップグレードの産品づくり。</p> <p>●多様な消費者ニーズに対応した出荷・流通体制の整備。</p> <p>●クマモト・オイスターの早期の増産体制確立。</p>	<p>●くまもとグリーン農業に取り組む農家数を23,000戸に拡大。</p> <p>●飼料用米の低コスト化・多収技術の向上・効率的流通保管体制構築を推進。</p> <p>●魅力ある品目とこだわりのある品質管理体制の整備。</p> <p>●10万個のクマモト・オイスターの試験販売。</p>